

# 看護実践・キャリア 支援センター通信

2025年  
1月

## 看護実践事業 専門看護師・認定看護師の実践を知る

# Vol.29

高度な専門性を持つ臨床看護師の実践の現場に立ち会うことで、これからのキャリアを考えていただく「専門看護師・認定看護師の実践を知る」研修の参加者を募集し、5名の方が参加しました。9～10月の2日間、それぞれ異なる希望領域の認定看護師とともにその看護を目の当たりにしました。また、直接見て話を聞くことで、他職種との連携を始めとした専門性を発揮した関わり、認定看護師同士の勉強会や症例の情報共有等、様々なことが分かった



専門的な視点での看護を見学

ようです。参加者のレポートにはその専門性を患者や家族のために活かすことで、より心に寄り添う看護が試みられていることへの感動が書かれていました。

専門的な分野で活躍する先輩Nsの看護に触れた今回の研修を、今後の自分のキャリアについて改めて考えるきっかけにでももらえればと思います。

今回実施した領域

クリティカルケア

緩和ケア

摂食嚥下障害看護

救急看護

認知症看護

## 地域貢献事業 ケアする方もケアされる方も楽になる認知症看護



池内勝継 CN 松田恵美 CN

10月5日(土)に当院の認知症看護認定看護師 池内勝継先生と松田恵美先生を講師に「認知症」について実践を含めて学ぶ研修を行い、院内外から33名の参加がありました。

午前中は「認知症」について、どういう原因でどういう症状が出るのか、症状での病名の見分け方、処方される薬の特徴等、患者への対応に必要な知識を学びました。午後からは認知症の患者に見られる事例で模擬患者に対応することで、より良い関わりを考えていきました。その中で介入に大切なことは患者の中核症状と心理の正確な把握であるということが分かりました。

せん妄と認知症の違い、認知症患者の機能をサポートするための環境や声掛け等のコミュニケーションなど、看護の現場ですぐに活かせる内容も多く、またグループワークを通して理解がより深まったようです。受講後アンケートには「これまでの関わり方を見直すきっかけになった」「症状別の対応が分かった」という感想が多く見られました。



事例の患者に対するアプローチを考える

# 令和6年度チェンマイ大学との学術協定に基づく マハラジ ナコーン チェンマイ病院への看護師派遣

## 参加者の報告 (C棟3階 福山 久美子)

チェンマイ病院で研修を受けさせていただきました。この研修では、タイの医療制度やチェンマイ病院の看護体制に加え、私に関心を持っていた集中治療における終末期医療や意思決定支援についても学ぶことができました。研修は講義だけでなく、施設や病棟の見学にも行くことができ、現場で働くスタッフとコミュニケーションをとりながら学びを深めることができました。

私が一番印象に残ったことはスピリチュアルケアについての学びです。スピリチュアルケアでは、患者の精神的ニーズの把握を重要視し、患者が大切にしている物事を入院中でもできるだけ継続し、患者の日常に繋げることを大切にしています。ICUで勤務していると、患者の療養環境が日常から離れてしまうことが多いのではないかと感じていました。しかし研修を通して、高度な医療を提供する



なかでも、患者の価値観を尊重し、共に治療の目標を設定することの重要性を再認識し、患者が大切にしている習慣や物事に繋がりをもてるようなケアを大切にしたいと思いました。

今回の研修では多くの学びを得ることに加え、海を越えた地で志高く、より良い看護の提供を目指している仲間にも出会うことができました。スタッフの方々はとても温かく迎えてくださり、思いやりや優



看護副部長から人材管理の説明を受ける じさを強く感じた2週間でした。自分が今まで知らなかった世界を知ることができたこの経験は、わたしにとってかけがえのないものとなりました。この貴重な経験を日々の看護実践に活かすとともに、今後も新たな挑戦に取り組んでいきたいと感じました。



JAO-I祭で歓迎スタッフと

お世話になった救命センターNsと

## 看護実践事業 対人関係の心理学 入門編



本学 医学部看護学科精神看護学 教授 奥田 淳先生を講師に、対人関係で活用できる心理学の知識・技術を習得するための講義・演習を全5回(1回80分 9~11月 奥田 淳教授 月の隔週木曜日開催)のコースで行い、19名が受講しました。

研修では「ジョハリの窓」や認知再構成法、アドラー心理学など様々な理論を活用して自分や他者の思いを分析する方法を学びました。専門書の内容だけでなく、マンガの登場人物が置かれた状態や思いの分析をすることもあり、またグループワークで他者の意見を聞くことで、理論へのアプローチのし方が理解できたようです。人それぞれの思いや認識、その中から生まれる関係性を一歩引いた視点で見つめ直せたことで、臨床での患者・家族・同僚等の自分の周りの人達との関わりに、この研修で得たこれまでとは違う視点を活かして欲しいと思います。



マンガの登場人物の思いを考える



チェンマイ大学交流事業での看護師派遣を5年ぶりに再開しました。  
 今回は11月10日～23日の日程で本大学附属病院の看護師2名が訪問し、現地、タイ王国の方の温かいサポートのもと、密度の濃い研修を受けることができました。

### 参加者の報告 (C棟6階 上月 葵)

今回コロナで中断されていたチェンマイ病院との交換研修が再開されると聞き、異国の医療制度や看護師の働き方を学びたいと思い今回参加を決めました。

2週間という研修期間の中で現地の医療スタッフと交流しながらタイの医療について様々なことを学ぶことが出来ました。その中でも特に興味深かったことは3つあります。1つ目はタイでは最先端の医療を取り入れていくだけでなく、伝統医療を混合しながら現地の人の健康管理を行っていること。2つ目は日本とは異なり療養施設が少ないため可能な限り自宅退院を目指し自宅で必要になる医療行為の指導をする、また退院後何か困った際には患者・家族が直接病院とLINEでやりとりを行い個々にサポートを行っていること。そして最後に入院や外来などで病院を利用している患者・家族にアンケート依頼して常に医療の質の評価を行い常により良い医療提供を目指していることです。

私は当院でしか看護の経験がなく、また英語もつたない状態で今回の研修に参加したため、コミュニケーションが取れるのかなど不安がありました。しかし現地の方は皆さんとても優しく、タイの医療だけでなくタイ独自の文化についても



病院内を案内してもらいました

たくさん教えてくださいました。来年度はチェンマイ病院のスタッフが当院に研修に来られる予定になっています。当院のことだけでなく、日本の文化にも触れて頂きお互いを刺激し高め合えるような関係を今後も続けていければと考えています。

最後になりましたが、海外の医療に興味のある方は是非参加して頂きたいと思います。今回は貴重な経験をさせて頂き有難うございました。



3日目 病院長と面談



病院正面

## 看護基礎事業 キャリアデザインプログラム (4年生対象)

11月27日(木)、看護学科4年生を対象にキャリアデザインプログラムとしてコミュニティーナースの方を講師に、地域で働く看護師についての話を伺いました。

講師の荏原優子さんはコミュニティーナースとして、奈良県だけでなく震災地域でも活躍しておられます。様々な経験から医療機関でもなく役所でもない生活に密着した場所に横断的に看護師がいることで、1人1人の生活をサポートしていくことができるという話をされていました。また、川上村で看護師をされている梅本久美子さんからも村での活動を伺いました。村の人の日常に溶け込む場所に看護師がいることで、健康診断や医療への窓口として柔軟に機能できるという話をされていました。

これから社会にでる4年生にとって、看護師の活躍の場の幅広さ、奥深さを感じることができた機会になったようです。



活動中の能登とZoomで繋いで講演

## 地域貢献事業 明日から使える静脈カテーテル管理

12月14日(土)、当院の中央放射線部の兒玉佐和特定看護師、萩原まさかNS、放射線診断・IVR学講座の豊田将平Drを講師にCVポート・PICC・エコーガイド穿刺の研修を行いました。毎年すぐに定員が埋まる人気研修で、今回参加者26名中19名が院外から参加されました。

CVポートを装着している患者が増えているため、一般病棟や在宅において対応が求められる看護の場面が増えていますが、処置を誤ると患者を危険にさらしてしまいます。研修では、まず感染を防ぐために必要な取り扱い上の注意やエコーの取り扱い、CVポート・PICC・パワーPICCの取り扱いの違い等について講義を受けた後、実際に附属病院で使用している機材を使用して



兒玉佐和特定Ns 萩原まさかNs 豊田将平医師



清潔を意識した貼替

演習を行いました。講義で学んだ内容を踏まえたエコーで穿刺する静脈を確認シミュレーターを使用してのCVポートやPICCの固定テープの貼替、エコーでの静脈を確認など、看護の現場ですぐに使える内容ばかりで、「CVポートの固定は上向きにした方が引っ掛かりにくい」「エコーの使い方が分かった」など、それぞれ理解が深まったようです。

## 特定行為研修 臨地実習

特定行為研修は一定の条件下で医療行為の一部を行える看護師を養成する1年間のプログラムで、奈良医大でも平成27年から開講しています。今年度も前半の研修・演習・OSCEを修了した受講生が10月から臨床で指導者立ち合いの下、「特定行為」の様々な実習を行っています。この実習での経験が修了後の実践に繋がります。実習は附属病院のほか、県内の10施設にもご協力いただいで実施しています。

「特定行為」が行える看護師は徐々に増えています。今後もこの研修を受講される方が、安全な「特定行為」実践を学べるよう研修環境を整えていきたいと考えています。

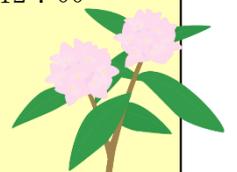


壊死組織の除去

挿管チューブの位置調整

## 今後のセンター事業

- |                         |                            |
|-------------------------|----------------------------|
| ☆ 復職支援サロン               | 日時：2月4日(火) 14:00~15:30     |
| ☆ 家族の力を見極め支援を考える家族看護    | 日時：2月11日(火・祝) 10:00から12:00 |
| ☆ キャリアデザインプログラム(2・3年対象) | 日時：3月3日(月) 13:30~15:00     |
| ☆ 看護師特定行為研修成果発表会        | 日時：3月5日(水) 10:00~17:15     |
| ☆ 特定行為研修修了式             | 日時：3月18日(火) 午前             |
| ☆ 伝達講習会                 | 日時：3月18日(火) 午後             |



発行元：公立大学法人奈良県立医科大学 看護実践・キャリア支援センター (Tel.0744-22-3051 内線 3233)